



逆境は優れたリーダーを創る

ビヨンドトゥモロー 活動ハイライト 2024年度 (2024年4月～2025年3月)

April 2024 ~ March 2025 Activity Highlights

可能性は、自分の中にある。



目次	ページ
ビジョンとミッション	02
代表理事からのメッセージ	03
24 年度活動ハイライト（奨学金事業）	04
〃（人材育成事業）	05
アンケート調査	09
卒業生の今	10
役員からのメッセージ	13
ご支援者・企業からのメッセージ	14
24 年度会計報告	15
公益化・イベント報告	16
様々なご寄付方法について	17
奨学金受給について	18

ビジョン

困難を経験した若者が共感力ある人材として成長し、
社会の各所で活躍することで、様々な声が反映される寛容な社会を実現する

ミッション

逆境を乗り越える若者を多方面から支え、
未来のグローバルリーダーへと成長する過程を応援する





「新しい一歩を」

公益財団法人教育支援グローバル基金
代表理事 橋本 大二郎（元高知県知事）

この一年の間にも、ビヨンドトゥモローには、いくつもの変化がありました。中でも、これまでの一般財団の枠を超えて、新たに公益財団法人の資格を得たことは、特に大きな一歩でした。これによって、私たちにご寄付をいただく方々に、税制上有利な対応を図ることが可能になりましたので、これを機会に、ファンドレイジングにもさらに力を入れていきたいと考えています。

また、奨学生として、一年間の活動に参加してくれたビヨンド生が、今度は後輩たちのためにプログラムの運営に参加するインターンの制度も、今年で3年目を迎えました。その中には、ビヨンドトゥモローとの出会いによって、自らの人生がいかに実り多いものになったかを、多くの方に語りかけてくれるインターン生もいます。ひとり親家庭や社会的養護での体験をもとに、「自分は、知っている世界も狭く、上手に夢を思い描くこともできなかった」と自らを振り返る一人は、「そんな環境によって、人生のチャンスを奪われている後輩たちに、可能な限り世界の広さを伝えていきたい」と、インターンに応募してくれました。

このような、毎年毎年の奨学生のつながりに加えて、2011年の第一期生から十数年にわたって、多くの卒業生が誕生していますので、昨年が続いて今年も、「ホームカミングデイ」を開くことが出来ました。こうして、一年一年積み重ねてきたビヨンドトゥモローの仲間の輪が、一層の厚みを増していることを実感しています。

さらに、2024年の秋には、新型コロナの感染拡大のために中断していた、米国東海岸（ワシントン・ニューヨーク）での研修を、5年ぶりに再開することが出来ました。公益法人化によって、より力強い一歩を踏み出すことが出来れば、次はアジアでの研修の旅も再現したいと、思いはふくらんでいます。



2024年度 活動ハイライト

自分の過去は恥ずかしいものじゃない、むしろその経験があるからこそ今の自分があるんだ。

自分自身も、どうすればもっと殻を破って、一步踏み出せるのかを考えていきたい。そのために自分の挑戦や、進路を考えていきたい。



今後は自分だからこそこの生き方ができるようにしていきたい。

悩むことは悪くないのだと感じて、沢山悩んでみようと思えました。

奨学金給付事業

24年度は27名の高校生、大学生を奨学生として迎え入れ、1年間のプログラムを共に過ごしました。

奨学金は給付型（返済不要）です。用途も不問にすることで、学生は将来的な負債を抱えたり、生活費の心配をしたりすることなく、学業に取り組むことができます。

奨学生選考においては、書類選考や面接を行い、教育関係者や各界で活躍するエキスパートにより構成された選考委員会により奨学生を決定しています。



対象とする学生

親との死別・離別を経験している

児童養護施設などの社会的養護施設や里親家庭に暮らしている

生活保護受給世帯に暮らしている

2024年度 奨学事業

エンデバー（高校生対象）

大学・短大・専門学校への進学を希望する児童養護施設などの社会的養護の施設および里親家庭に暮らす高校生を主な対象とし、人材育成プログラムおよび進学のための受験料を支給します（上限10万円）。

ジャパン未来スカラーシップ・プログラム（大学生対象）

高等学校等を卒業し、新たに大学・短大・各種専修学校に進学する学生たち給付型（返済不要）奨学金支給を行っています（年間50万円）。

人材育成事業

ビヨンドトゥモローでは、奨学金給付以上に、奨学生一人ひとりに寄り添い、成長の過程を応援する人材育成事業を大切にしています。様々なプログラム（研修機会）により、仲間やロールモデルとなる大人との出会い、社会課題について考える学びの機会、意見交換や発表などでの挑戦の機会を提供し、幅広い視野の獲得や、将来の選択肢について考えるきっかけをつくり出しています。24年度は5回、国内外の様々な土地で、全国から若者が集まる対面研修を行うことができました。

「オリエンテーション・プログラム 2024」

～挑戦しやすい社会のために私たちができること～

●開催地：東京都 高尾・代々木 ●開催期間：2024年3月24日～26日

2024年度生が初めて顔を合わせたオリエンテーション・プログラムは、東京・高尾と代々木で開催されました。高尾の自然散策や、23年度生や卒業生との交流も取り入れながら、参加者同士がこれまでの経験を語り合い、将来のビジョンを共有しました。また、卒業生やゲストとの対話を通じて、仲間やビヨンドトゥモローへの理解を深め、今後1年間の活動に向けたそれぞれの目標を設定しました。



NPO法人農スクール理事長株式会社えと菜園代表取締役の小島希世子氏による講演



班ごとに「若者が挑戦しやすい社会」についてディスカッション



クラウドワークス代表取締役兼CEO 吉田浩一郎氏による講話

参加した学生の感想

今までは自分自身にも、母にも、兄弟にも、他者に気を遣ってしまい、自分の思いに素直になって行動したり、思いを伝えることができませんでした。ですが、プログラム終了後は他者の思いよりも、自分の気持ちに素直に従って行動したり、発言するなど、他人の目を常に気にして**自分の思いを押し殺すことが少なくなりました**し、また、押し殺してしまわないよう、積極的に心がけるようになりました。

エンデバー・プログラム参加 高校生

参加した学生の感想

最も心に残っていることは自分の成長を感じたことです。今までのプログラムでは班でのディスカッションのときは周りの意見に合わせたり曖昧でもわかったフリをする時が時々ありました。しかし、今回のプログラムでは自分の考えや思ったことはそのまま言うことが出来たり少しでも疑問があった時は質問をすることができました。

エンデバー・プログラム参加 高校生

震災の爪痕を肌で感じて、辛いのに目が離せなくなった。私は子どもたちのために何か将来アクションを起こしたいと思っているが、災害を前にしたら全て無力だと思った。それを少しでもやわらげるために防災の意識をもっと高めたいと思った。

ジャパン未来スカラーシップ参加 大学生

「サマー・リトリート 2024」

将来のビジョン構築

～逆境を経験した若者の可能性と社会への貢献～

●開催地：石川県、福井県 ●開催期間：2024年8月6日～10日

高校・大学生22名が参加した夏季研修、サマー・リトリートでは「逆境を乗り越え社会に貢献する力」をテーマに、自然災害やエネルギー問題を軸とした実践的なプログラムを通じて、自ら考え行動する力を育みました。

初日はNHK金沢放送局で能登半島地震発生当時の様子や、災害を報道の視点から学びました。2日目は輪島高校の生徒達とまちづくりについてディスカッション。3日目には福井南高校で非常時に備えた食・設備づくり、4日目には美浜町で原子力発電所やエネルギー施設を見学し議論を深めました。最終日には「誰もが輝ける社会をつくるために」をテーマに、協働学習を進めた福井南高校の生徒とともに発表しました。



輪島高校の生徒と復興や街づくりについて話し合う



エネルギーを他県に供給しながら原子力発電所を抱える地域の暮らしや課題についてお話を聞く



「誰もが輝ける社会形成のためのアクション」について最終日にプレゼンテーション

夏季グローバル研修 「米国サマー・プログラム 2024」

村瀬二郎記念奨学事業



2024年9月8日～15日に、アメリカ・ニューヨーク、ワシントンD.C.での海外研修プログラムを実施しました。米国（東海岸）での研修は、感染症拡大のため2019年を最後に開催を見送っており、5年ぶりの実施となりました。

本研修は、日米両国の架け橋として活躍された故村瀬二郎氏のご遺志を継いだ「村瀬二郎記念奨学事業」として、皆様からのご支援、ご寄附により支えられ開催することができました。同事業は、日米交流の担い手となる若者がアメリカの空気に触れ多くの人と交流し、米国社会について学ぶことを目的としており、学生たちがアメリカという地でたくさんの学びを吸収する機会となりました。

【概要】

参加者	ジャパン未来スカラーシップ・プログラム2023年度奨学生および2024年度奨学生より10名
テーマ	グローバルリーダーシップとは？～イノベーションや多様性に富んだアメリカで学ぶリーダーシップ～
訪問先	米国 ニューヨーク・ワシントンD.C.
支援	村瀬二郎記念基金、米日財団、日本万国博覧会記念基金助成事業、NY日系人会、ジャパン・ソサエティー
協力	日本航空株式会社、バンク・オブ・アメリカ

直前研修

渡航前日には米国社会に関係の深い方々をお招きし、壮行会を実施しました。第1部では、参加学生は「自分が問題視している社会課題」について自身の経験をもとに、より良い社会のためにできること、そのために米国研修で学びたいことを英語で発表しました。第1部最後には、前駐シンガポール大使、元駐スウェーデン大使の山崎純様より渡航前の学生へ激励のお言葉を頂きました。



NYでの活動

プログラム中のNY滞在では、9.11ミュージアム、イサムノグチ美術館、国連本部ツアーと国際連合日本政府代表部特命全権大使の志野光子大使（当時）への表敬訪問を行なった他、エスティーローダー社見学、スタートアップ企業代表との対話、NPO団体コモンパントリーでのボランティア活動などを行いました。



ワシントン D.C.での活動

プログラムの中盤では、ワシントン D.C. を訪問しました。ジョージタウン大学 J-NET の学生との交流、現地公立高校 (CHEC) にて高校生との交流、国会議事堂ツアー、在米日本大使館山田重夫特命全権大使表敬訪問、元上院議会議員マックスボークス氏、メイヤー・ブラウン法律事務所伊藤弁護士との対話などを通して、様々な分野での「リーダーシップ」について新たな視点を得ることができました。



Farewell Reception (提言発表会)

最終日には、等基金理事の村瀬悟氏主催のもと、ジャパン・ソサエティー様を会場にお借りし提言発表会を行いました。会場の「村瀬ルーム」は米国プログラム開始以来毎年使用させていただいており、村瀬家の思いのこもった場所です。学生達は、一人ひとりが関心を持つ社会課題と解決に向け、米国での学びと将来の自身のリーダーシップを結びつけた発表を行いました。



参加した学生の感想

理解し合うことの重要性をとて学べたと思います。アメリカで活躍する日本人を見て、『架け橋』という存在の大切さも実感しました。自分も異なる文化の人々や社会を繋ぐ『架け橋』になりたいと思いました。

私にとってのグローバルリーダーシップとは『聞く力』にあると考えます。特にグローバルという広い範囲であれば、生まれ育った環境や、大切にしている信念など多様になってくるということを、今回の米国研修で実際に目で見えて感じる事が出来ました。

グローバルリーダーシップとは、様々な人の状況、感情や言葉にできないことに目を向けることができ、それを知った上で誠実に優しさを持って物事を分析し、意見を出し、より多くの人のために尽力できることだと考える。今回学んだグローバルリーダーシップを自分がもち、それを充分に発揮して、将来より多くの人の幸せに貢献できるようになりたい。そして、人、社会に貢献できたことを後悔しない人生にしたい。

「ジャパン未来リーダーズサミット 2024」

～若者が考える、社会的孤立～

- 支援：バンク・オブ・アメリカ ●後援：文部科学省
- 開催地：東京都 ●開催期間：2024 年 10 月 12 日～14 日
- 参加者：2024 年度年間奨学生、一般応募高校生、北陸地域からの高校生 計約 60 名

年間奨学生をはじめ、一般応募の高校生、また、24 年 1 月と 9 月に発生した能登半島地震や豪雨災害により被災した輪島高校の生徒を招き、ジャパン未来リーダーズサミットが実施されました。災害や家庭環境など、様々な要因で若者が抱え得る「社会的孤立」という課題について、若者自身が当事者の声を生かしてできることを考えました。社会人メンターのご協力やゲストスピーカーのお話にヒントを得ながら提言を作成し、最終日には社会で活躍するリーダーたちの前で発表しました。



「孤立」の解決に向けてのアクションを発表し合う。



2 日目には「自然災害とこれからの社会」をテーマとしたパネルトークを実施。東日本大震災を経験した、ビヨンドトゥモロウの卒業生もパネラーとして参加

参加した学生の感想

3 日間のサミットで、多くの刺激を受けました。様々な視点や知識を共有することで、自分自身の視野が大きく広がっただけでなく、**新しい挑戦への情熱が湧き上がりました。**この貴重な経験は、これからの自分の成長に大きな力となると感じています。

北陸地域より参加の高校生

母子家庭は恥ずかしいことだと思い込んで過ごしてきましたが、**むしろその経験があるからこそ今の自分があるんだ**ということに気が付けられました。

エンデバー・プログラム参加の高校生

参加した学生の感想

自分のバックグラウンドは自分にしかないもので、これをどう生かすかや、この境遇を経験した私にしかできない生き方があるのではないかと思えました。

今後は自分だからこそ生き方ができるようにしていきたいです。

エンデバー・プログラム参加の高校生

やはりチャンスは掴むべきものだと思いました。**『できなくてもまずやってみる』、この気持ちが大変なんだと学びました。**

ジャパン未来スカラーシップ参加の大学生

「スプリング・プログラム 2025」

～わたしたちだから実現できるリーダーになるために～

- 支援：株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
- 開催地：東京都 ●開催期間：2025 年 3 月 25 日～27 日
- 参加者：2024 年度奨学生、および 2025 年度奨学生 計46 名

2024 年度及び 2025 年度の学生が集まる春のプログラムでは、1 年間を終える奨学生と、これからスタートする学生それぞれが「リーダーシップ」について考え、「わたしたちだから実現できるリーダーとはどんなリーダーか」についてディスカッションや発表をおこないました。明治神宮や企業訪問など、グローバルな視野から日本を見つめ、一人ひとりがリーダーシップや挑戦についての考えを深める機会となりました。



日本の文化や宗教を世界に発信する明治神宮の取り組みを 禰宜（ねぎ）伊藤守康氏に伺う



企業訪問で楽天グループ株式会社を訪問し、楽天グループ株式会社 常務執行役員 グループ・チーフ・カルチャー・オフィサーでもあり、ビヨンドトゥモロウの理事でもある小林正忠氏による講演や対話を実施

逆境が糧になる ～リーダーシップ・アンケートから見える変化～

ビヨントゥモローに参加する若者たちは、それぞれの逆境を乗り越えながら、本プログラムに挑みます。学校生活やアルバイトなどで忙しい中、「自分を見つめ、未来を考える時間」に向き合おうと、未知の学びの場に飛び込む決断をしました。選考を経て奨学生になると、1年間を通してのさまざまな経験を通じ、自分自身と深く向き合い、仲間と対話し、前向きな姿勢を育んでいきます。

その一人ひとりの変化を可視化するため、ビヨントゥモローでは年間プログラムの参加者を対象に、年度初めと年度末の2回、リーダーシップ・アンケートを実施しています。この調査は、学生自身の意識の変化やリーダーシップ観の成長を捉え、プログラム改善にも役立てることを目的としています。

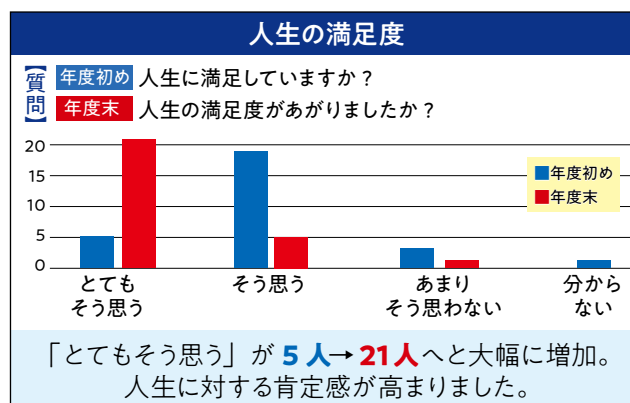
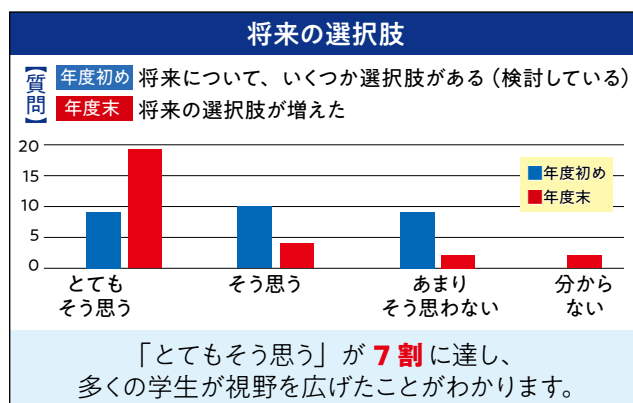
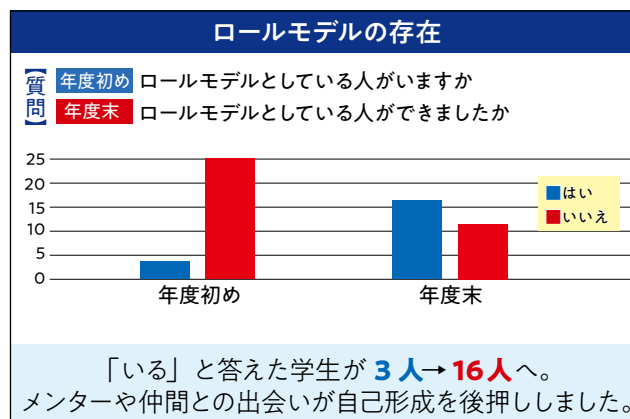
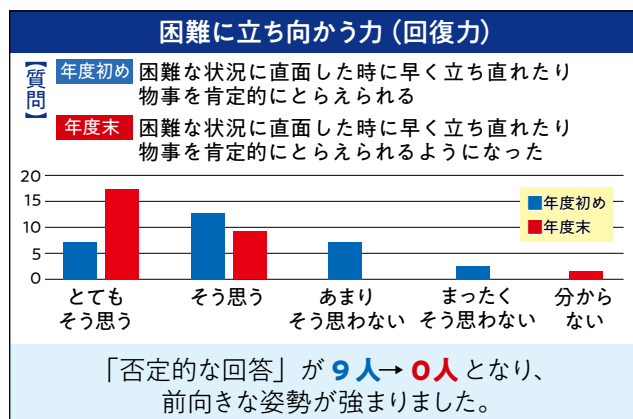
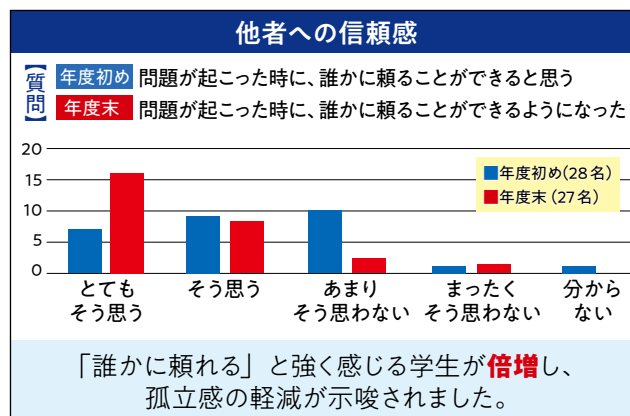
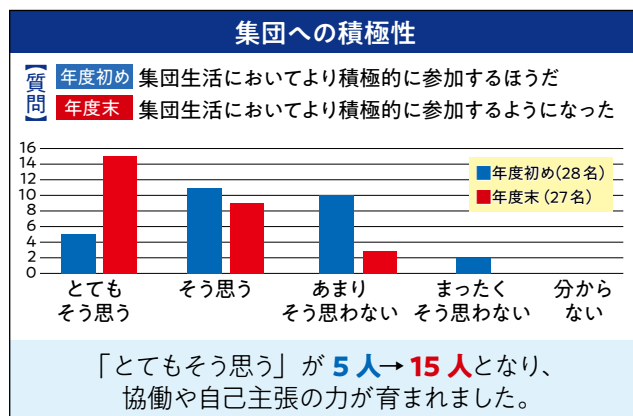
※本調査は統計的な因果関係を証明するものではありませんが、一人ひとりの変化の兆しを見つめる大切な手がかりとして、毎年継続して実施しています。なお、プログラム終了時のアンケートは、匿名での回答です。

アンケート概要

対象者	実施時期	回答数
ビヨントゥモロー 年間奨学生	2024年4月（プログラム開始時） 2025年3月（プログラム終了時）	4月＝28名、3月＝27名 （途中辞退者1名）

主な変化と傾向（図表参照）

アンケート結果（抜粋）



高橋瑞希さん Mizuki Takahashi

所属…青森県内病院勤務



私は、小学生の頃から助産師になることを夢見ていました。高校生にならず具体的な進路希望を決めなければならなくなり、母子家庭であるため経済的な壁にぶつかりました。進学をするか、進学をあきらめて就職すべきか悩んでいました。そんな時に、担任の先生がビヨンドトゥモローについて紹介して

くれました。正直なところ、当初は、あまり乗り気ではなく、奨学金に魅力を感じ応募しました。

私が初めてビヨンドトゥモローに参加したのは高校2年生のジャパン未来リーダーズサミットでした。初めはすごく緊張しており、どんな人が参加して、どのような活動をするのかと不安でいっぱいだったことを覚えています。活動が始まり、自身の体験を発表する際に、班のメンバーの話す内容に衝撃を受け、自分の今までの経験はみんなに比べると些細なことのように思え、引け目を感じました。そんな時、班のメンバーの一人が「人の苦労の大きさを比べない」と言ってくれました。それを聞いて自分も話していたのだと思えました。今まで誰かに打ち明けることのないまま胸に隠してきた思いを、話したことで自分の思いに気づくことができました。共有したからといって、辛い過去や現状が変わるわけではありません。しかし、1つ自分が心に抱え

ていた重たいものが昇華できた気がしました。どんな過去や家庭環境であっても、それに負けず夢に向かっていく仲間を見て、自分も夢に向かって輝きたいと思うようになりました。

看護学校1年生の時には、米国サマー・プログラムに参加することができました。きっと、ビヨンドに参加していなければ、海外に行くこともなかったと思います。世界に足を運び、世界の課題について知り、世界の人となつがる機会ができたことはとても貴重な経験でした。ファミリーデーでは、お世話になったファミリーの奥さんは、助産師として働いている方であり、お話を聴けたことでより助産師になりたいという気持ちが強くなったことを覚えています。もし、もう一度会えるとしたら、助産師になれたことを報告したいです。



ビヨンドトゥモロー活動当時

ステポシナカテリーナさん

Kateryna Steposhyna

所属：個人事業主（オンライン英語講師）



大学院時代の思い出の土地、
英国エディンバラで撮影

問するプログラムに参加し、国際的なリーダーたちの声に触れました。また、「人間を考える学び舎」であるリベラルアーツプログラムにも取り組み、哲学的な問いや地域合宿を通じて「人と向き合う力」を実践的に学びました。

大学卒業後は、自分の心に従って生きることを大切にし、エディンバラ大学大学院へ進学。しかし渡英直前に1型糖尿病と診断され、緊急入院という大きな転機を経験しました。このことが、「自分の人生を自分で決めて生きる」という覚悟を強くしてくれました。修士課程では、自身がマルチリンガルであることや、生徒として出会った自閉症の子どもとの関わりをきっかけに、神経多様性やバイリンガル教育に関心を持ち、研究を深めました。

高校時代、「リーダー」という言葉に強く惹かれてビヨンドトゥモローに応募しました。幼い頃から「自分はリーダーである」という意識があり、その力を伸ばしたいという思いと、ビヨンドの理念が重なったのです。活動を通して、表面的な情報ではなく、一人ひとりの背景やストーリーに心を寄せて関わる大切さを学びました。この姿勢は今の教育観の根幹を成しています。

大学では、ヨーロッパの国際機関を訪

たYouTubeチャンネルも開設し、「英語だけでなく、人生に役立つスキルも学べる場所」を目指しています。

ビヨンドトゥモローで学んだ「目の前の人の背景は見ただけでは分からない」という姿勢は、今の仕事においても非常に大切になっている価値観です。10年後、20年後の未来像としては、シンプルに「健康で幸せに生きていたい」と思っています。1型糖尿病や神経多様性と向き合

いながら生きることは簡単ではありませんが、その難しさと尊さを知っているからこそ、心から大切にしたい目標です。



ビヨンドトゥモロー活動当時



YouTube チャンネルの
ホーム画面

福澤 孝晴 さん Takaharu Fukuzawa

所属…IR、サステナビリティ関連企業勤務



「こういうのに興味あつたりする？」児童養護施設の職員さんが何気なく渡してくれた1枚の紙がきっかけで、秋のジャパン未来リーダーズサミットに参加しました。「逆境は優れたリーダーをつくる」という言葉に惹かれ、ここなら学校の友人には話せないような、自分の家族のことや児童養護施設のことを話せるかもしれないと、かすかな期待を抱いたのを憶えています。

サミット当日、初対面の仲間たちとそれぞれの体験を共有するなかで、それま

で何の価値もないと思っていた自身の生い立ちや経験が、時として人の生きる力や勇氣に変わることになりました。「元氣が出た」「自分も頑張ろうと思った」と声をかけてくれた仲間たちの言葉は、一生忘れることがあります。自分の経験が「負の遺産」から「自信」へと変わった瞬間でした。同時に「逆境」という軸一本で、世界的に活躍するリーダーの方々と交流できたことは、非常に大きな経験でした。それまで自分とは縁遠かった世界を目の当たりにし、私もいつか人に影響を与えられるリーダーになりたいと強く思うようになりました。

ビヨンドでの経験を土台に、大学では社会的養護に関わる多くの活動に取り組みました。大学での学びを通じて、より広く社会的課題の解決に貢献したいと思い、現在はサステナビリティに関連するIR系企業で働いています。

現在の仕事は、直接のクライアントだけではなく、その背後にいる投資家やサプライチェーンに関わる人々、社員、そして地域住民など、多様なステークホルダーの意見を想像し、探っていく必要があります。

ます。ある側面では好意的に受け止められる成果物が、別の側面では否定的に評価されることも少なくありません。このような状況で最適解を探し、ステークホルダー全体の期待に応えていく中で、ビヨンドの経験が役立っていることは言うに及びません。他者の思いに深く共感し、答えのない問いを問い続け、そこから提言を導き出してきたビヨンドでの学びは、形を変えて現在の業務に通じていると感じます。

将来、といっても明確なビジョンがあるわけではありませんが、いつかビジネスの世界から、恵まれない子どもたちの機会創出に貢献したいと思っています。逆境を力に変えるビヨンドでの経験は、振り返れば短い時間でしたが、そこで過ごした濃密な日々を思い出すたびに、あらゆる障壁を乗り越えられるという強い自信が湧いてきます。これからもその自信を胸に、前向きに進んでいきたいと思っています。



ビヨンドトゥモロー活動当時



ビヨントゥモローの大切さを 痛切に感じたこと

業務執行理事 上滝 賢二

この1年、ビヨントゥモローの学生の皆さんと接する中で、私の心に響いた二つの出来事をご紹介します。一つは研修会、もう一つは里親の方たちとの交流会です。皆さんが、厳しくつらかった自分のこれまでの歩みを受け止めながら前に進もうとする姿を通して、ビヨントゥモローの存在がいかに大切なかを痛切に感じました。

一つ目は、昨年8月、北陸のリトリート研修での発表会です。

まず、ビヨンド生の女子学生が代表としてスピーチをしました。家族からの虐待を受け闇の底に沈み続けていたという彼女が、ビヨントゥモローという居場所をみつけて仲間と温かく受け入れてもらい、心身の苦痛から立ち直れたこと。そして、自分を奮い立たせ、ありのままの自分でいられる素晴らしさを噛み締めていることを、多くの仲間や教育関係者の前で力強く話してくれました。

続いて、参加した生徒たちが「自分たちの将来ビジョン」をテーマに能登半島地震の被災地や原子力発電所の視察、そして地元高校生との交流を通じて学んだことを4班に分かれて発表しました。その内容は、偏見に対し自明性を疑うことや、第3者とつながることの大切さなど、いずれも独創性のある見事な発表でした。ふつうならここで終わりとなるはずですが、発表を聞いていたビヨンド生から、次々と質問の手が挙がりました。

これに対し、発表者たちも必死に説明して答えるやりとりがしばらく続きました。体験の共有を越え、発表への質疑応答を通じて課題をさらに深掘りしていく想定外の展開。お互いに知的好奇心を刺激しあって成長していくビヨンド生の逞しさを目の当たりにしました。終了後に、審査員の教育関係者からは「どうすればあのような生徒たちに育つのか教えて欲しい。今の学校教育ではとても難しい。また今日の代表スピーチを多くの学校の生徒や親たちにぜひ聞かせたい」との声が相次ぎました。

二つ目は、この5月に栃木県で開かれた里親の方たちおおよそ20人との交流会です。お互いに会うのは初めてのことでした。

はじめに、4人のビヨンド生が、児童養護施設や里親に育てられてきたこれまでの生い立ちを話してくれました。これに対し里親たちからは、「成長するにつれ、または自立していったあとに、子供たちとの距離の取り方が非常に難しく感じる」とか、「学費など公的な援助は充実してきたが、子供たちが、本当の自分の生き方を歩んでいるのかと、心配になる」などといった問いかけがありました。

これに対してビヨンド生たちからは、「私たちが里親の手から卒業した後に、大人とあえて距離を作るのも一つの選択肢だ」とか、「私たちが自分の可能性を自分で見つけられるように見守ってくださるのも大切なことではないか」。また、「自分でバイトしたお金で生活を始められたことで、初めて自分の存在意義を肯定できた」といった答えが返ってきました。その中でも、私が思わずハッとしたのが次の言葉でした。

「大人の方たちには、私たちに無償の愛情を持ってほしい。そして、里親の方たちにはいつまでも私たちにオープンでいて欲しい」というものでした。この「無償の愛情」という言葉に込められた思いの深さに感心しました。里親の方々も頷いておられました。お互いに初めて会ったばかりなのに実現した率直な会話。それは、子供たちを懸命に育ててきた里親と、育てられてきたビヨンド生との間に信頼関係が出来上がっていたからだと思いました。

この二つの出来事を通して、私は、ビヨントゥモローの存在がいかに大切なものか、それを痛切に感じました。と同時に、ビヨンド生の逞しさにも教えられました。これからも微力ながら力になれたらと思います。

ご協力企業、支援者様からのメッセージ

ご協力企業

株式会社ジーエークレアス

代表取締役 松尾 祐一 様



我々は、プリントショップキンコーズのエリアフランチャイズとして、これまで九州を中心に店舗を展開しており、新たに札幌・仙台を含めた地方都市圏に出店し、地元の方や出張される方のお手伝いをさせて頂いております。昨年度よりビヨントゥモローの活動を微力ながら支援できたことは、大変光栄であり、若者を支援する意義を感じる機会となりました。そのため、弊社では、新卒者に向けた奨学金支援や、デザイン専門学校とのイベント企画など若者向けの新たな取り組みを始めることといたしました。みなさんの活躍は、そこだけにとどまらず、その周囲にも波及しています。若さは武器です。

今しかないパワーや今しかできないことが多くあります。たくさんチャレンジし、たくさん失敗して、そのパワーの波を周囲に広げ続けてください。今後のみなさんの更なる活躍に期待しております。



◆ 法人会員制度のご紹介 ◆

ビヨントゥモローの法人会員制度は、困難な環境にある若者の成長を、企業の皆さまと共に支えていく取り組みです。単発の支援ではなく、長期的な視点で関わっていただくことで、若者たちの変化や成長をより深く実感していただけます。会員の皆さまには、プログラムへの参加や活動報告のご提供、イベントへのご招待などを通じて、支援の輪に加わっていただきます。次世代を担う若者と社会をつなぎ、ともに未来を育むパートナーとしてのご参加をお待ちしています。



法人会員様からのメッセージ

株式会社 NHK グローバルメディアサービス

代表取締役 神田 真介 様



当社はNHK報道の関連会社として耳が不自由な方のために放送に字幕をつける仕事や手話ニュースのほか、ことし日本初開催の「デフリンピック」を盛り上げる事業にも取り組んでいます。

すべての人に「あまねく」確かな情報を届けたい。そんな思いで仕事をしています。

若い人たちに成長の場や機会を提供しようというビヨントゥモローの活動は、私たちがめざしていることと通じるものがあります。

みなさん、「仕事」って何のためにするのでしょうか。「自分のため」というのももちろんですが、自分以外の誰かに喜んでもらうためのものではないでしょうか。

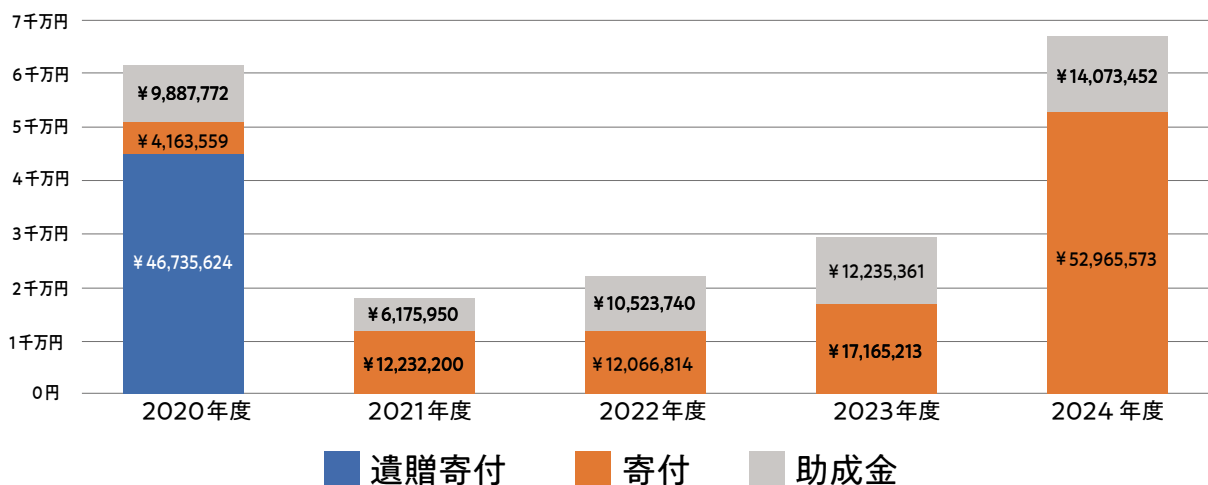
ぜひ報道の現場、ユニバーサルサービスの現場を見に来てほしいと思います。

みなさんの未来を心から応援します。



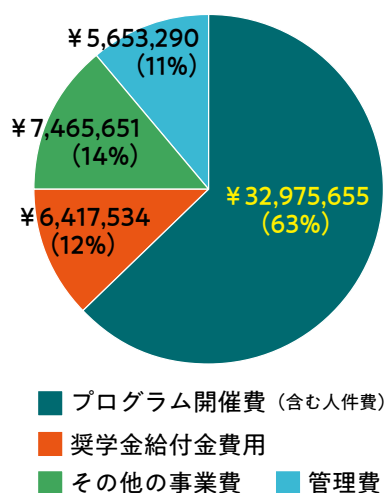
2024年度会計報告 2024年4月1日から2025年3月31日まで

収益の内訳

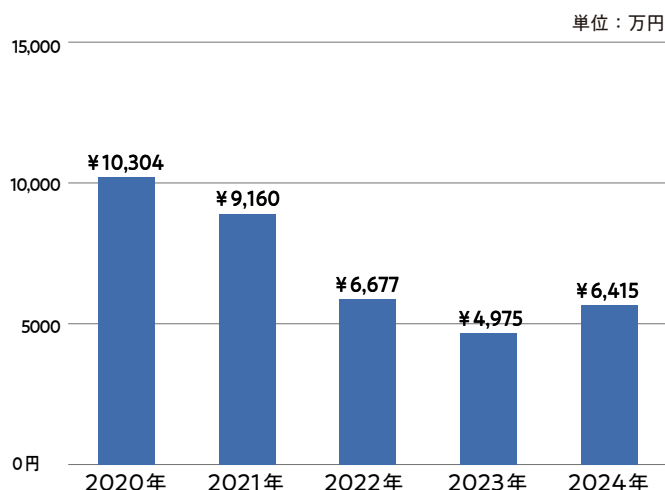


支出の内訳

経常費用の使途
52,512,130円



正味財産の推移



収入計

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
¥60,786,955	¥18,408,150	¥22,590,554	¥29,434,486	¥67,039,025

24年度の収入は、ご寄付及び助成金が大きく伸びて約6703万円となりました。一方、支出は約5251万円で、このうち奨学金給付に約642万円（12%）を支出。また人材育成のプログラム開催費（含む人件費）は約3296万円（63%）で、あわせて支出全体の75%を困難な環境にある若者への活動として使わせて頂きました。また、24年8月には私どもの長年の社会貢献が認められ、公益財団法人化が実現しました。

その結果、24年度の収支は、約1453万円の黒字となり、4年ぶりの黒字決算となりました。また、これまでの貯金に相当する正味財産額も約6415万円と4年ぶりに増加しています。

さらに、公益財団法人化の後に、遺贈寄付の申し出を数件頂いております。今後、財団の公益性を活かして、遺贈や相続財産の寄付への周知、そしてご協力をお願いに力を入れてまいります。

ビヨンドトゥモローは 2024 年、公益財団法人となりました

私ども教育支援グローバル基金は、2024 年 8 月、内閣府から公益法人認定を受け、「一般財団法人」から「公益財団法人」に移行いたしました。

公益財団法人とは

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に基づいて設置される法人であり、公益性の高いものとして内閣府から認定を受けた法人をいいます。公益財団法人は、税制上の優遇措置に係る資格を有します。

税制優遇について

- 個人としてのご寄付は、所得控除が受けられます※。また、相続税について、個人が相続財産を公益法人に贈与した場合、非課税となります。
※現状、税額控除は受けられませんが、現在、当局宛に申請中です。
- 法人からのご寄付は、特別損金算入限度額が設けられます。

イベント 報告

人生のしめくりを社会貢献へ ― 遺贈寄付・終活イベントでの対話と発信

2024 年度ビヨンドトゥモローは、人生の集大成を社会貢献につなげたいと願う方々に向けて開催された複数の「遺贈寄付」、および「終活」関連イベントにおいて、活動紹介を行いました。いずれの機会にも代表理事・橋本大二郎奨学生が登壇し、参加者との対話を通じて、困難を乗り越えようとする若者たちを支えるビヨンドトゥモローの活動と、遺贈という形で未来世代を支援する意義について広く発信しました。

① おひとりさまの生前対策と遺贈寄付を考える集い

●開催日：2024 年 4 月 30 日 ●会場：すみだ産業会館

本イベントでは、「おひとりさま」や終活に関心を持つ方々に向けて、生前対策と遺贈寄付について分かりやすく解説が行われました。代表理事・橋本大二郎が登壇し、自らの経験や想いを交えながら、遺贈寄付を通じてどのように社会に想いを託せるのかについて語りました。参加者からは「自分ごととして考えるきっかけになった」との声が寄せられました。



② 橋本大二郎さんと遺贈寄付を考える

●開催日：2024 年 8 月 25 日 ●会場：すみだ産業会館

当日は、READYFOR 株式会社による遺贈寄付の基礎知識や事例紹介、専門家（司法書士・税理士）による実務的な留意点の解説に加え、社会貢献団体による活動紹介が行われました。第二部では、日本対がん協会、日本ユネスコ協会連盟、日本児童養護施設財団、そしてビヨンドトゥモローが登壇。代表の橋本は、困難な状況にある若者を支える活動の意義を語り、遺贈を通じた新たな支援の形を提案しました。

③これから終活フェア（第2回コレカラ終活フェア）

●開催日：2024 年 11 月 26 日 ●会場：すみだ産業会館

東京都墨田区のすみだ産業会館で開催された終活イベントでは、終活や相続、健康に関する専門的な情報が発信される中、橋本大二郎が特別ゲストとして登壇。丸山和也弁護士との対談形式で、これまでの人生と社会活動について語る「ゲストトークショー」では、終活をより前向きに捉えるための視点が共有されました。来場者からは、「これからの人生を見つめ直す機会になった」との反響がありました。



これらの機会を通じて、ビヨンドトゥモローは、人生の集大成としての「遺贈寄付」が未来を担う若者たちへのエールとなりうることを、参加者の皆さまに伝えてまいりました。

今後も、共に生きる社会を築くための対話の場に積極的に参加してまいります。

様々なご寄付の方法があります

ビヨントゥモローの活動の全てが、活動の趣旨にご賛同くださった多くの企業・個人の皆様からのご寄付・ご支援によって支えられています。



オンライン決済、銀行振り込みなどによるご寄付

銀行振込、クレジットカード払い、Vポイント、楽天Payなどで、ご寄付をいただくことができます。詳しくは、当財団ウェブサイトまたはお電話でお問い合わせください。



遺贈によるご寄付

遺言状や遺言信託による遺贈寄付の他、相続によるご寄付、お香典のご寄付をいただくことで、ご自身の財産や大切な方のご遺志を、未来を担う次世代の若者支援にご活用いただけます。遺言書の作成や、財産のご寄付について相談できる、信託銀行及び弁護士などの専門家のご紹介を希望される方は、当財団までお問い合わせください。



商品やサービスによるご支援

物品やサービスの無償でのご提供や、オフィスなど施設・会場の提供、プロボノでのアドバイザーのご協力など、様々な形でご支援をいただくことができます。

ご寄付に関する
お問い合わせ

電 話 03-5453-8030 (受付時間 平日 10:00 ~ 17:00)
電子メール info@beyond-tomorrow.org

公益財団法人教育支援グローバル基金 及び ビヨントゥモローについて

公益財団法人教育支援グローバル基金は、共感力ある次世代のグローバル・シティズン（地球市民）の輩出をめざす「ビヨントゥモロー」の運営を行っている非営利の財団法人です。

「逆境は優れたリーダーを創る」を理念に、次世代を担う資質を持ちながらも、親との死別や離別を経験したり、児童養護施設に暮らすなどの困難を経験した若者を対象に、奨学金支給及び人材育成プログラムの開催を行い、広い視点、深い共感力をもって社会のことを考えることのできる人材輩出をめざしています。



【組織体制】

代表理事	橋本 大二郎	元高知県知事
理 事	小林 正 忠	楽天グループ株式会社 常務執行役員 グループ チーフ・カルチャー・オフィサー
	上 滝 賢 二	元日本放送協会理事
	本 庄 竜 介	グリーンコア株式会社 代表取締役
	村 瀬 悟	メイヤー・ブラウン法律事務所 弁護士
	平 川 理 恵	元広島県教育長、昭和女子大学 ダイバーシティ推進機構 客員教授、 学校法人金蘭会学園 理事・経営改革本部長、他
評 議 員	塩 崎 恭 久	一般財団法人勤草日本イニシアティブ代表理事
	宮 城 治 男	NPO 法人 ETIC. 創業者
	小宮山 利恵子	スタディサプリ教育 AI 研究所所長・東京学芸大学大学院教授
アドバイザー	竹 中 平 蔵	慶應義塾大学 名誉教授、元国務大臣
監 事	江 崎 滋 恒	アンダーソン・毛利・友常 法律事務所 外国法共同事業 弁護士

奨学金の受給者が増えています

現在、日本国内の大学生の半数以上が奨学金を受給し、その数は増加の傾向にあります。給付型奨学金よりも貸与型奨学金の受給率の方が高い一方で、貸与型の受給者は、その多くが将来の返済に不安を抱えているほか、給付型奨学金についての情報が十分に行き届いていないという課題もあります。¹

¹ 受給率：日本学生支援機構「令和4年度学生生活調査結果」
全国大学生生活共同組合連合会「第60回学生生活実態調査（2024年）」
給付型奨学金について：ガクシー「奨学金に関する実態調査2023年」プレスリリース

奨学金の受給率

55.0%

返済に不安がある

67.9%

給付型奨学金についてよく知らない

70.9%

奨学金の情報源

n=456 ※複数回答

先生・学校からの紹介

40.6%

学校開催の説明会

32.7%

学校配布・掲示の資料

28.3%

また、奨学金の情報源はアナログな方法が多く、大学受験の勉強と奨学金探しの両立は、学生にとって大きな負担となります。奨学金・授業料減免の制度自体の拡充を望む声が見られるとともに、効率的な情報収集の方法や正しい知識の普及が必要とされています。²

² ガクシー「奨学金に関する実態調査2023年」プレスリリース



ビヨンドトゥモローの目指すリーダーと人材育成カリキュラム



ビヨンドトゥモローは、困難な経験を乗り越えた若者たちの共感力と回復力に着目し、それを強みに変えて社会に貢献するリーダーを育てています。私たちが育成を目指すのは、国内外で多様な価値観に向き合い、より良い社会をつくるグローバルリーダーです。そのために、「人間力」「思考力・問題解決力」「伝達力」「チームワーク」「創造力」の5領域にわたる力を体系的に育む独自のカリキュラムを構築。高校生には**自己理解**と**表現力**を、大学生には社会課題に主体的に取り組む**行動力**を育む機会を提供しています。

【目指すリーダー像】

共感力をもって、国内外の各所において社会をより良い方向へ導くことができるグローバルリーダー

自らの経験を強みに変えて、他人の境遇に共感したうえで考えを深化させることができる人

一人ひとりの意見に耳を傾け、より良い結論へと導いていくことができる人

人それぞれの志向や多様な考え方があることを理解したうえで、多角的な視点から物事を見つめることができる人

【プログラム目標】

- 高校生奨学生：自分の潜在的な可能性に気づき、それを最大限生かして表現する力を養成
- 大学生等奨学生：未来の日本を背負う“グローバルリーダー”として自分にできることを考え、周囲を巻き込みながら行動力を養成

【ビヨンドトゥモローが理想とするリーダーの力】

資質項目	① 人間力		② 思考力・実践力・問題解決能力	③ 情報処理・伝達能力	④ チームワーク能力	⑤ 創造力
具体的な 資質・能力	・自己内省・成長力 (対自分の内面的要素) ・他者との関わりの中で 自己理解する力 ・内省する力 ・誠実さ ・適応力 ・レジリエンス (逆境を受け自分らしい生き 方を追求する力) ・自己制御 (意欲・忍耐) ・自己管理	・共感・社会性 (対他人への要素) ・傾聴力 ・相互啓発力 ・公共心 ・利他的 ・責任感 ・受容力	・課題解決能力 (当事者意識をもった課題設定→ 解決策を検討する→アクションに 起こすための手立てを考える) ・他の境遇に共感した上で 考えを深化させる力 ・論理的に考えを発展させ る力	・情報処理、収集能力 ・プレゼンテーション能力 (伝わりやすい発表・話し方)	・積極的傾聴力 ・チームでの遂行力 ・協働、尊重、協調性	・柔軟な思考力 ・自由、かつグローバルな視点 ・多様な価値観を反映した創造性 ・多様な考えとの触れ合いを通し た価値観の広がり

是非「いいね!」ボタンを押したり、
投稿のシェアで応援をお願い致します!



プログラムの様子や最新情報を発信しています!



 @beyondtomorroworg



 @beyondtomorrowjapan



 @tomorrow_beyond



【設立年月日】2011年6月1日 【ウェブサイト】<https://beyond-tomorrow.org/>

【所在地】〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-26-18 園ビルディング 1F

【電話】03-5453-8030 【FAX】03-6745-9100 【メール】info@beyond-tomorrow.org

kinko's
On Demand Solutions



この冊子は、キンコーズ・ジャパン株式会社様からのご協賛により印刷しています。